

9月市議会でえんど久子市議一般質問 愛情を持って教育に取り組むために

教職員の健康について

9月市議会一般質問で、猿渡（えんど）久子市議は教職員の健康は教育にとって大切なことだと述べ、教職員の健康と職員体制・職員確保の問題を取り上げました。

年々増える先生の病気

えんど久子市議は、8月末に上京し文部科学省と話し合ったことにも触れながら質問。まず、教職員の病気の状況について質問しました。一般疾病による1か月以上の病気休暇、病気休職者はH20年度3名、H24年度13名。精神神経系の疾患ではH20年8名、24年度17名と年々増えています。

えんど市議は、産業医に学校現場の実情を知ってもらうことや事務量の見直し、正規教職員の増員などを求めました。



図書館司書など各校に

また、えんど市議は「子ども議会で、学校図書館の司書やスクールサポーターやスクールカウンセラーは兼任でなく全校配置を、との子ども議員さんからの質問に、市長より前向きな答弁があった。子どもの期待を裏切らないように、年次計画を立て、早期に実現を。専門的なスタッフの充実はとても大事だ」と求めました。

子どもの希望

かなえるためにも

教育長は、「精神的に悩んでいる教職員が増え非常勤講師で対応している状況がある。正規教職員の増員を県教委に要望していく。スクールカウンセラーや図書館司書などについては、子ども達の夢や希望を叶えるためにも関係課と協議していく」と答弁。

えんど市議は「学校図書館の司書は月16日勤務で2校を兼務。1校には8日しか行けない中で努力いただいている。予算をつけて来年度からでも増員を。スクールサポーターは大学院を出た臨床心理士など優秀な人材で、正規化が必要だ」と重ねて求めました。

市議会の画像は別府市議会HPで見ることができます。ぜひご覧ください。

日本共産党 別府市議団
げんきニュース

発行責任者 平野文活
別府市石垣西8-2-31
TEL0977-22-6576

No.578
2013.10.30

日本共産党議員ら

大分県と交渉

就学援助 マイナスにならぬよう

10月24日、大分県庁で県への新年度予算について交渉しました。

えんど久子市議は、「就学援助に生活保護基準の引き下げのマイナス影響が出ないようにすべし。厚労省に確かめたが、今年度だけでなく来年度以降も影響が出ないように

にというのが国の通知の趣旨だ。来年度以降も受けられない人が出ないように市町村に周知徹底を」と求めました。

大分県の担当者は「国に再度確認して市町村に周知徹底を図る」と回答しました。

生活保護の改悪に反対を

生活保護の担当者は「来年度以降も影響が出ないよう」という意味で、国の通知を受け取っている」と言いました。

生活保護基準引き下げなど生活保護の改悪に反対の声を国に上げるよ

う、えんど市議はいろいろな角度からがんばりましたが、「現段階では国に意見を上げる状況にはない。生活ができない状況が発生したら正しいかなければならない」という趣旨の回答でした。

児童相談所の体制充実を

児童虐待防止については、「児童相談所の職員を増やしたと回答があるが、それで十分なのか。さらに増員が必要だと思いがどうか。緊急の場合に十分対応できていないのでは」とえんど市議。

「昨年度より2名増員した」と担当者。「さらに増員が必要だと思いがその考えは？関係者から不満の声を聞く」と再度質問すると、「今後も充実していきたい」と回答がありました。



午前10時から午後4時まで2部屋に分かれて県の各担当者と話し合いました。県下の各市の共産党市議や団体のみなさんと毎年、新年度予算について要望し、文書回答を受けて交渉します。写真は訴えるえんど久子市議。

2013. 10. 24. 県議会委員会室にて